

平成 23 年度市政モニター 第 2 回アンケート結果

テーマ 「ごみ減量に向けた市民と行政の役割」

環境部ごみ減量対策課

八王子市総合政策部広聴広報室

目 次

《市政モニターの属性》	1
テーマ 「ごみ減量に向けた市民と行政の役割」	
問 1 あなたはプラスチックの分別をしていますか	2
問 2 プラスチックを分別していない方に、分別していないのはなぜですか	3
問 3 現在のごみ・資源物の収集回数は適当だと思いますか	
(ごみ)	
1 可燃ごみ	4
2 不燃ごみ	4
3 有害ごみ	5
(資源物)	
1 新聞	5
2 ダンボール	6
3 雑誌・雑紙	6
4 紙パック	7
5 プラスチック	7
6 ペットボトル	8
7 空きびん	8
8 空き缶	9
9 古着・古布	9
問 4 容器包装プラスチックを資源物として出せるようになってから不燃ごみはどのくらい減りましたか	10
問 5 昨年10月以降不燃ごみの排出回数はどのくらいですか	11
問 6 ごみの減量や資源化推進のために心がけていることは何ですか	12
問 7 今後、更なるごみ減量のためには、どのようなことが必要だと思いますか	
ご意見・ご要望(自由記述)	13

《 市政モニターの属性 》

(太枠内は今回の回収数)

		一般		Eメール		合計	
全体		30	30	70	65	100	95
性別	男性	10	10	39	38	49	48
	女性	20	20	31	27	51	47
年代	10歳代	1	1	2	1	3	2
	20歳代	6	6	12	10	18	16
	30歳代	8	8	18	17	26	25
	40歳代	7	7	11	11	18	18
	50歳代	4	4	7	7	11	11
	60歳代	3	3	16	15	19	18
	70歳代	1	1	4	4	5	5
	80歳代	0	0	0	0	0	0
地区	中央 (本庁地区)	5	5	17	16	22	21
	西南部 (浅川・横山・館地区)	7	7	11	9	18	16
	東部 (由木・由木東・南大沢地区)	4	4	20	18	24	22
	西部 (元八王子・恩方・川口地区)	5	5	6	6	11	11
	東南部 (由井・北野地区)	6	6	14	14	20	20
	北部 (加住・石川地区)	3	3	2	2	5	5

※ アンケート実施期間：平成 23 年9月 12 日から平成 23 年9月 27 日まで

※ 回収率： 95.0 %

※ 回答は各質問の回答者数(n)を基数とした百分率(%)で表示した。(百分率は、小数点以下第2位を四捨五入して算出してあるため、合計が100%にならない場合がある。また、複数回答の場合は、回答比率の合計が100%を超える場合がある。)

※ 割合の表現については、各値が、「0.0%」の場合は「〇割」、「0.1～0.9%」の場合は「ほぼ〇割」、「1.0～3.9%」の場合は「〇割強」、「4.0～5.9%」は「〇割台半ば」、「6.0～8.9%」の場合は「〇割弱」、「9.0～9.9%」の場合は「ほぼ〇割」との表記を基本とする。

※ 自由記述等については、通し番号でありモニター番号ではない。

テーマ「ごみ減量に向けた市民と行政の役割」

環境部ごみ減量対策課

ごみの減量に向けて、平成 16 年度有料化制度を導入し、昨年 10 月にはプラスチックの資源化拡大及び資源物の戸別回収を実施したところです。

この取り組みについては、市民の皆様のご協力により、可燃ごみ・不燃ごみを合わせた収集量で約 28%（15 年度比）の減量を維持しながら、昨年の制度改正で、不燃ごみの約 55%（前年度比）の減量を達成しました。資源物の回収量は、全体で約 33%の増加となり、特にプラスチックについては約 400%の大幅な増加になりました。

この成果の持続と更なるごみ減量の実現に向けて、市民と行政が役割を明らかにし、協働していく必要があると考えています。

そこで、今後の施策展開の参考とするため、あなたのごみ減量の意識についてお伺いします。

問 1. 昨年 10 月から、プラスチックの分別方法が変わりましたが、あなたは分別をしていますか。 (○は 1 つ)

(n=95)

	構成比(%)
している	82.1
大体している	10.5
していない	2.1
無回答	5.3

昨年 10 月から、プラスチックの分別方法が変わった後、分別をしているかどうか聞いたところ、「している」(82.1%)と「大体している」(10.5%)を合わせた『している』は9割強(92.6%)であった。

問2. 問1で「3. していない」と答えた方に質問します。分別していないのはなぜですか。
(○は1つ)

(n=2)

	構成比(%)
分別方法は分かるが、汚れなどを落とす手間が掛かるため	50.0
資源物として出せる区分（プラマーク）が分からない	0.0
分別方法は分かるが、分別に手間が掛かるため	0.0
その他	0.0
無回答	50.0

問1で「プラスチックを分別していない」と答えた方で、分別していないのはなぜかきいたところ「分別方法は分かるが、汚れなどを落とす手間が掛かるため」が5割（50.0%）であった。

問3. 現在のごみ・資源物の収集の回数は適当だと思いますか。 (○は各項目で1つ)

(ごみ)

1. 可燃ごみ

(n=95)

	構成比(%)
適当である	77.9
やや少ない	17.9
やや多い	3.2
多すぎる	1.1
少なすぎる	0.0

現在のごみの収集の回数は適当だと思うかどうかきいたところ、可燃ごみについては「適当である」が8割弱 (77.9%) であり、次いで「やや少ない」が2割弱 (17.9%) であった。

2. 不燃ごみ

(n=95)

	構成比(%)
適当である	67.4
やや少ない	18.9
やや多い	12.6
多すぎる	1.1
少なすぎる	0.0

現在のごみの収集の回数は適当だと思うかどうかきいたところ、不燃ごみについては「適当である」が7割弱 (67.4%) であり、次いで「やや少ない」が2割弱 (18.9%) であった。

3. 有害ごみ

(n=95)

	構成比(%)
適当である	73.7
やや少ない	12.6
やや多い	9.5
多すぎる	2.1
少なすぎる	2.1

現在のごみの収集の回数は適当だと思うかどうかきいたところ、有害ごみについては「適当である」が7割強（73.7%）であり、次いで「やや少ない」が1割強（12.6%）であった。

(資源物)

1. 新聞

(n=95)

	構成比(%)
適当である	84.2
やや少ない	7.4
多すぎる	4.2
やや多い	2.1
少なすぎる	0.0
無回答	2.1

現在の資源物の収集の回数は適当だと思うかどうかきいたところ、新聞については「適当である」が8割台半ば（84.2%）であり、次いで「やや少ない」が1割弱（7.4%）であった。

2. ダンボール

(n=95)

	構成比(%)
適当である	74.7
やや少ない	18.9
やや多い	4.2
多すぎる	1.1
少なすぎる	0.0
無回答	1.1

現在の資源物の収集の回数は適当だと思うかどうかきいたところ、ダンボールについては「適当である」が7割台半ば（74.7%）であり、次いで「やや少ない」が2割弱（18.9%）であった。

3. 雑誌・雑紙

(n=95)

	構成比(%)
適当である	55.8
やや少ない	31.6
やや多い	5.3
少なすぎる	4.2
多すぎる	2.1
無回答	1.1

現在の資源物の収集の回数は適当だと思うかどうかきいたところ、雑誌・雑紙については「適当である」が5割台半ば（55.8%）であり、次いで「やや少ない」が3割強（31.6%）であった。

4. 紙パック

(n=95)

	構成比(%)
適当である	77.9
やや少ない	10.5
やや多い	6.3
多すぎる	2.1
少なすぎる	2.1
無回答	1.1

現在の資源物の収集の回数は適当だと思うかどうかきいたところ、紙パックについては「適当である」が8割弱(77.9%)であり、次いで「やや少ない」がほぼ1割(10.5%)であった。

5. プラスチック

(n=95)

	構成比(%)
適当である	55.8
やや少ない	34.7
少なすぎる	4.2
多すぎる	3.2
やや多い	2.1

現在の資源物の収集の回数は適当だと思うかどうかきいたところ、プラスチックについては「適当である」が5割台半ば(55.8%)であり、次いで「やや少ない」が3割台半ば(34.7%)であった。

6. ペットボトル

(n=95)

	構成比(%)
適当である	72.6
やや少ない	17.9
やや多い	6.3
多すぎる	2.1
少なすぎる	1.1

現在の資源物の収集の回数は適当だと思うかどうかきいたところ、ペットボトルについては「適当である」が7割強(72.6%)であり、次いで「やや少ない」が2割弱(17.9%)であった。

7. 空きびん

(n=95)

	構成比(%)
適当である	76.8
やや少ない	15.8
やや多い	4.2
多すぎる	2.1
少なすぎる	0.0
無回答	1.1

現在の資源物の収集の回数は適当だと思うかどうかきいたところ、空きびんについては「適当である」が8割弱(76.8%)であり、次いで「やや少ない」が1割台半ば(15.8%)であった。

8. 空き缶

(n=95)

	構成比(%)
適当である	69.5
やや少ない	23.2
少なすぎる	3.2
やや多い	2.1
多すぎる	1.1
無回答	1.1

現在の資源物の収集の回数は適当だと思うかどうかきいたところ、空き缶については「適当である」がほぼ7割（69.5%）であり、次いで「やや少ない」が2割強（23.2%）であった。

9. 古着・古布

(n=95)

	構成比(%)
適当である	66.3
やや少ない	14.7
やや多い	11.6
多すぎる	4.2
少なすぎる	2.1
無回答	1.1

現在の資源物の収集の回数は適当だと思うかどうかきいたところ、古着・古布については「適当である」が7割弱（66.3%）であり、次いで「やや少ない」が1割台半ば（14.7%）であった。

問4. 昨年10月以降不燃ごみとして出していた容器包装プラスチックが資源物として出せることで、不燃ごみが減りましたが、あなたのご家庭での量の変化について減ったと思う量を以下からお選びください。(○は1つ)

(n=95)

	構成比(%)
約70%程度減った	40.0
約50%程度減った	22.1
約30%程度減った	16.8
変わらない	11.6
その他	9.5

【その他】

- 1 90%程度減った (5.3%)
- 2 80%程度減った (3.2%)
- 3 95%程度減った (1.0%)

容器包装プラスチックを資源物として出せるようになってから不燃ごみはどのくらい減ったかきいたところ、「約70%程度減った」(40.0%)と「その他(約80%以上減った)」(9.5%)を合わせた『約70%以上減った』が、ほぼ5割(49.5%)であり、「変わらない」は1割強(11.6%)であった。

問5. 昨年10月以降不燃ごみの排出回数について以下からお選びください。

(○は1つ)

(n=95)

	構成比(%)
月1回出している	33.7
隔週で出している	30.5
2か月に1回程度出している	22.1
その他	13.7

【その他】

- 1 3か月に1回程度 (7.4%)
- 2 6か月に1回程度 (3.2%)
- 3 4か月に1回程度 (2.1%)
- 4 出していない (1.0%)

昨年10月以降不燃ごみの排出回数についてきいたところ、「月1回出している」が3割強(33.7%)であり、次いで「隔週で出している」がほぼ3割(30.5%)であった。

問6. あなたが普段の生活の中で、ごみの減量や資源化推進のために心がけていることは何ですか。 (〇はいくつでも)

(n=95)

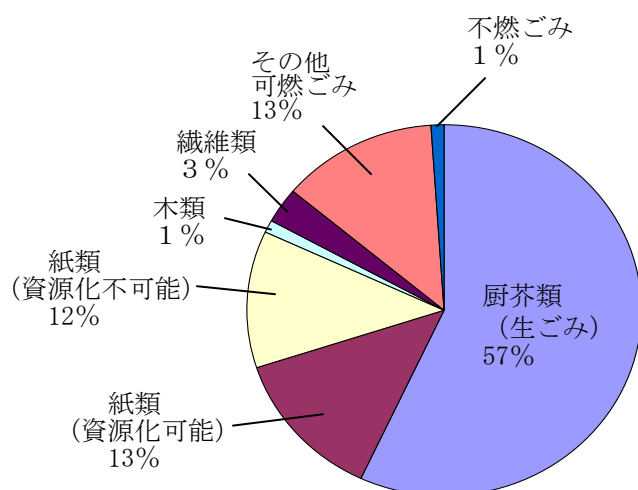
	構成比(%)
市の資源物回収に出している	76.8
買い物袋を持参し、レジ袋をもらわないようにしている	75.8
必要以上の包装は断っている	60.0
ものを大切に長く使うようにしている	51.6
ペットボトル・トレーなどの店頭回収を利用している	42.1
地域の集団回収に出している	36.8
その他	16.8

【その他】

- 1 買い物する時によく考えて購入する。
- 2 食べ残しをできるだけしない。食材廃棄（野菜の皮など）を少なくする。
- 3 食べられる量しか買わない、作らない。
- 4 野菜はほとんど残さないで料理に使う、すなわちごみを極力少なくしている。
- 5 プラリサイクルのものはきちんと洗ってから出すようにしている。
- 6 詰め替え用を使用する。きれいに洗ってから資源として出す。
- 7 詰め替え用の商品や、リサイクル、堆肥用コンポスト。
- 8 生ごみは偶に植木鉢へ入れて肥料にする。
- 9 生ゴミは堆肥にする。
- 10 再利用や別の使い方をして、すぐには捨てない（・裏紙はメモ用紙として再利用する。・洋服はカバンや髪飾りなどに変えて楽しむ。・譲る。・リサイクルショップに売る。など）。
- 11 牛乳、マヨネーズ、ケチャップなど、回収再利用できる、びんの物を購入。
- 12 必要以上に物を持たないようにしている。
- 13 傘袋、水筒持参（ペットボトルは買わない）。
- 14 収集日まで家庭内ごみは市の区分に合わせて分別区分けしている。
- 15 幼稚園に出している。牛乳パック・箱・ペットボトルのふたなど。
- 16 子ども会の資源回収。
- 17 新聞屋

普段の生活の中で、ごみの減量や資源化推進のために心がけていることは何かきいたところ、「市の資源物回収に出している」が8割弱（76.8%）であり、次いで「買い物袋を持参し、レジ袋をもらわないようにしている」が7割台半ば（75.8%）であった。

問7. 下のグラフの可燃ごみ組成（内容物）を見ると5割を超える生ごみや資源化できる紙ごみなどがありますが、今後、更なるごみの減量を実現するためには、どのようなこと（どんな施策）が必要だと思いますか。あなたの考えをご記入ください。（300字以内）



- 0 1 一番に考察すべきは、全体の約6割を占めている生ごみの再利用についてである。今現在、市で生ごみに対してどのような方法で処理をしているのか分からないが、農作物の肥料等活用の余地はあると考える。また、ごみの減量を実現するためには、分別をしっかりと行うことが一番重要になってくると思う。簡単に見えて意外と手間がかかるこの作業を一人ひとりがしっかりと意識できるよう、再利用後の具体的効果等を皆に知ってもらえる機会を設けたらより良いと考える。
- 0 2 更なるごみの減量には、生ごみの資源化が不可欠であると思う。そのためには、生ごみ専用袋の配布も必要だと思う。専用袋が有料であっても構わない。スーパーなどで生ごみの店頭回収があると更に良いと思う。
- 0 3 自分の家庭での施策は、生ごみはできるだけ使い切ることと、残さずきれいに食べること。アイデアで生ごみを少なくする。野菜も使い切る。不燃ごみの施策は、最後まで使う。必要ない物は買わない。使い切ることが大事だと思う。
- 0 4 ごみの組成で57%の「生ごみ」とある、単体で「生ごみ」として、出すこと。
- 0 5 家庭で発生する生ごみの割合が57%と家庭で改善できる余地があると考えている。しかし、行政ができる事がない（強いて言えば呼びかけ）と思っている。最終的には家庭が動かなければ何も変わらない。例えば、調理中に出たごみは仕方ないとしても、調理後の料理は残さず食べる。（食べられる程度の量を作る）家庭内での心がけで変わることがあると信じている。
- 0 6 「生ごみをいかにするか」が問われている。各家庭において生ごみを出さない努力が必要である。野菜ひとつにしても全てを使い切る方法がある。その方法を各家庭に紹介する。要は料理の方法を家庭に教えることにより、ごみの減量化が可

能となる。また、出た残飯は、コンポストに入れて肥料とし野菜や花の栽培に使うことにより、ごみが少なくなる。極力家庭内においてごみをリサイクルすると良いと思う。更に、各家庭の不用品を必要な人に回す「リユース」の促進が必要とされる。リユースのためのフリーマーケットのさらなる促進を図る必要があると思う。特に年を経た家庭はモノが多くある。若年層はモノが少ない。この間の交流を図ることにより、資源の無駄を省けるのではないかとと思う。

- 0 7 生ごみの中には使いきれなくて捨てられる食品が多いと聞く。適切な量の買い物を心がける。食材を使い切る工夫をアピールする。エコクッキング教室などの機会を増やして欲しい。
- 0 8 生ごみは沢山であるが、やはりしっかり水分を切るのがなかなかできない。水分が短時間で切れて、それでいてその時間においや虫などが発生しない対策ができればもうすこし水分を切れると思う。それとプラスチック資源ごみにするために汚れたものは軽く水洗いしているが（例：マヨネーズの容器）、していない人が多い。個人個人がもっとそのわずかな作業をするということを認知してもらえるようにすれば可燃ごみが減ると思う。
- 0 9 確かに私の家でも、可燃ごみのほとんどが生ごみで、なかなか減らすのが難しい。地域で堆肥にするための生ごみ回収を考えられたら良いし、もしくは逆に可燃ごみを占める割合の少ない資源化不可能な紙ごみやその他のごみを作り出さない社会に切り替えていくことが必要だと思う。
- 1 0 一番割合の高い「生ごみ」を減らすのが効果的な施策になると思う。生ごみを減らすためには「生ごみ」を出さないことと「生ごみ」を利用することが考えられる。まずは各家庭に対して賞味期限切れなどの無駄な食品廃棄がないように意識づけることが大切だと考える。次にそれでも出る生ごみをいかに利用するかがカギになると思う。堆肥にすることが考えられるので生ごみ処理機器を普及させるような取り組みが必要になるのではないかと考える。
- 1 1 可燃ごみの削減は、生活習慣の変更が第一に要求されるので大変難しいと考える。できるとしたら、生ごみの排出を減らすことだと思う。行政側はここに手を出さないと基本的な排出を削減することは不可能だと思う。ごみ運搬車の重量の大半は水分を含む生ごみの運搬であり、他の可燃ごみで家庭から出るものは軽量で圧縮可能だと思う。行政は分別を強要するのなら、この部分を家庭内で処理できるシステムを将来に向けて解決して欲しい。家庭内でごみの回収回数を指折り数えるのは生ごみの異臭対策があることを忘れないで欲しい。住みよい街の基本は、快適な個人生活が送れるかどうかだ。箱物とかに金をかけずにもっと市民の目線に立って改善して欲しい。
- 1 2 生ごみの臭いに閉口している。真冬以外は一年を通して団地内の大部分でその臭いがする。生ごみ、有害物質等の集積ボックスには密閉度の高い物を使用してもらいたいものだ。可燃ごみを生ごみと紙ごみに分別するのも一つの方法かと思うが如何だろうか？
- 1 3 生ごみ専用の回収袋を作る。そして回収したものを土に戻すリサイクル作業をしたらどうか？

- 1 4 ①生ごみは水分が多く、焼却には多大なエネルギーが必要となる。ついては、少しでも脱水処理や、天日等自然乾燥する方法はないか。手間、衛生状態を考えれば容易ではないが。②生ごみをバイオ処理して、分解、ガス化して新エネルギーとして利用してはどうか。このためには、生ごみのみの分別収集が必要となる。③住所、氏名のある郵便などは破って可燃ごみとしている。各家庭に小型のシュレッダーを配布し、シュレッダーごみを資源ごみとして再利用できないか。
- 1 5 生ごみに関していえば、食育を通じて家庭において利用できる食材の廃棄を減らす工夫をしていく必要があると感じる。食育を行う場の提供や講師など市民全体に行うことは難しいと思うので、八王子市のコミュニティラジオ局を設立し、様々な分野におけることを市民に対して伝達することができるようになる。さらに八王子市周辺には数多くの大学があることから、ラジオをはじめとしたメディアに興味のある学生も多くおり、このような学生に運営ボランティアといった形で携わってもらうことで就業訓練にもつながるだろう。ごみ減量という問題はやはり一人ひとりの意識改革が最も重要なことだろう。グラフが家庭だけか、その他を含むのか分からない。
- 1 6 家庭用生ごみ処理機器の購入に補助金が出るのは知っているが、置き場所の確保が難しかったりして躊躇してしまう部分がある。市役所や出張所などの市の施設やJ A、地域のスーパーなどに協力してもらいごみ処理機を置いてもらえれば、個人的にその場所まで持って行って構わないと思う。その上で、可燃ごみの収集を週1回にしてみても良いのではないだろうか。
- 1 7 ①生ごみ処理機器の補助金を増やす。
②市で生ごみ処理センターのようなものを作り、各家庭で出たごみを持ってきてもらい、そのごみで肥料を作り売る。もしくは農家に生ごみで作った肥料を提供し野菜を作り、その野菜を売る。
③捨てがちな野菜などを使ったエコ料理教室を開催し、一人ひとりの生ごみへの意識を高める。
- 1 8 家庭用生ごみ処理機器の普及のために、補助金を出して欲しい。生ごみは水を切っても減量することが難しい。今は家庭菜園をする家庭もふえているので、処理したものがそのまま肥料としても活用できる。紙ごみに関しては、ホッチキスがある紙はどうしても面倒で可燃に出してしまいがち。紙ホッチキスの普及もあると良い。特に市で出しているものはそうする必要があると思う。
- 1 9 以前清瀬市に在住していた時、ゴミ袋を可燃、不燃の他にプラスチックの3つを購入し出していた。そのこともあってか分別がさらに意識されたように思った。また、生ごみ処理機器も各家庭で購入を促すよう助成金を出しており、生ごみ処理機器を購入する方も多かったように思う。様々な点で賛否両論かとは思いますが、生ごみの減量については自分自身も考えていこうと思った。
- 2 0 生ごみを肥料に変える機械の補助金がでると聞いたが、現在でも継続しているのか？庭があるので生ごみの減量になるならば、購入しようかと考えている。生ごみは水分を切ってからだと随分効率よく焼却できるので、みなさんにも行って欲しいと思う。

- 2 1 以前、生ごみ処理機器を購入し、市から助成金をもらった。今回処理機が壊れてしまい、買いなおしたいのだが、助成金の金額を増やしてもらおうと購入しやすい。処理機を使うと可燃ごみもぐっと減るので環境にも良いと思う。
- 2 2 ・生ごみ処理機器への助成を増やしてほしい。
・どこかの市は、生ごみの堆肥化の指導をよく行っている。
・紙の門松は、ご存知ですか？千葉市、佐倉市、京田辺市などは、市役所のホームページからダウンロードできるようにして、本物の門松の代わりに使用するよう推進している。これによって、森林資源の保護、ごみの削減ができる。
- 2 3 生ごみ処理機器を一般家庭で購入する場合の助成費を増やす。
- 2 4 生ごみ処理機器を地域ごとに購入。
- 2 5 我が家では、生ごみ処理機器を利用している。そのため生ごみを可燃ごみに出すことはない。ごみの収集日まで生ごみを保管せずに済むため衛生的である上、地域のごみ回収・処分費用の軽減に役立っていると思う。八王子市では、申請すれば購入金額の2分の1を補助してもらえるので、そういった情報を市が積極的に発信し、購入を推進していくべきではないかと思う。
- 2 6 生ごみを肥料として再生できる機械を希望者配布、又は貸与していただくと嬉しい。地域でのフリーマーケット、リサイクル活動を活発化させる。
- 2 7 生ごみの減量や有効活用が大きく効くと思う。我が家では処理機で乾燥することで、大幅に生ごみを低減し、庭の肥料に活用している。ただし、これも電気での処理なので、エネルギー政策次第という弱みはある。
- 2 8 ①生ごみは肥料などに再生させたいが、生ごみペールの購入時に市が負担してくれるサービスはあるのか？
②我が家では生ごみが多いため、できるだけ余計な食材を購入しないようにする。
- 2 9 生ごみ再生マシン（肥料や土にするもの）を希望家庭に配布する。
- 3 0 生ごみを堆肥として、利用できるように生ごみ処理機器を地域の市民センターに設置する。市民には燃えるごみの中に生ごみは入れず、別にとっておいて溜まったらセンターに持っていく。その出来た堆肥は市民農園を利用する人や家庭菜園をしている人に売り、お金は福祉に役立てる。
- 3 1 まず、生ごみに関しては生ごみ処理機器を利用し、肥料等として再利用するのが良いと思う。特に学校などの公共施設では採用したらどうかと思う。紙ごみに関してはスーパーや図書館などに回収ボックスを設置するのが良いと思う。
- 3 2 共同コンポストの設置。紙ごみの回収頻度を多くする。
- 3 3 出来たらポストによる生ごみ処理をし、その後処理されたものを回収すればさらに減量できると思う。
- 3 4 生ごみを堆肥化するコンポストの普及・啓発のためのチラシ配布（広報）強化が更に必要と思う。
- 3 5 コンポストの推奨、購入費用の助成、アピール、紙ごみの資源化のアピール、教育。これらを職場、子どもたちに、地域で教育・啓蒙を進めていく。市においてもさらなる施策をお願いする。
- 3 6 生ごみは肥料にするよう心がける。（各家庭で実行）

- 3 7 生ごみを減らすには、家庭内で処分する方法が良いと思う。つまりバイオの力で腐葉土を作り家庭菜園に利用するか、きれいな人は八王子市が買い取る方法である。しかし、バイオ装置を市が全面的に支援しないと効果は無いだろう。
- 3 8 森林・植栽の多い八王子における剪定枝や葉を持ち込み、堆肥化できる施設を準備してはどうか。現在、1度に2袋まで出せるようになっているが、量としてはかなりのもので減量に十分つながると思う。
毎年行っている街路樹の剪定枝や木の無償配布は評価できるが、緑の多さも特徴の八王子としては、緑と都市の共生についてもう一步進んだ施策を考えたいほうが良い。堆肥は市民農園・近隣農家・教育施設への販売・配布でリサイクルも検討できると思う。
- 3 9 身近で気軽に生ごみを肥料化できる施策が有効ではないかと思う。どこだったかは失念してしまったが、生ごみをそのまま投入できる機械を置いている商店街の例を見たことがある。我が家では、父が趣味で畑仕事をしており、生ごみを肥料に使うためほとんど生ごみが出ない。自分で肥料化するには、場所や時間もなかったり面倒だったりハードルも高いので、気軽に生ごみを肥料化のために出せる場所があると良いのではないか。
- 4 0 ごみ内容の約半分が生ごみなら、少々お金がかかってもそれに対応した施策を行うことが、長い目で見て有効だと思う。生ごみは水分でかさ増しされているので、それに対応した機械があること、購入に対し助成があるというのを聞いたことがあるが、配布ではないので関心ある家庭しか購入しない、配布しても使わない家庭も出てくる可能性がある。そこで、地域のメインの集積所ごとなどに配布・設置というのはどうだろうか？個人で購入するよりも負担がなく、各家庭に配布するより機材が少なくて済む。助成する分を設置の予算に回し、結果、可燃物が減ればごみ袋に資源を使う量が減り、堆肥を農家に売るなどの収入で堆肥回収の人件費に充てる。
- 4 1 私の家庭では、生ごみを肥料に作っているが、簡単にできる方法などをもっと市が伝える。無料の野菜苗をエコ王国で配ったように、あれをもっと回数をふやしてほしい。そのためにも園芸会社の協力も必要だが。
- 4 2 生ごみを、肥料にできるようにどこかに機械を設置してほしい。紙ごみは、資源物として出すように各個人がもっと努力をしなければならないと思う。
- 4 3 ごみ袋に同様のグラフを印刷し、「紙ごみは資源化できるのでお願いします」という様なPRをしてはどうか。少ない紙ごみだと可燃ごみに出してしまいたい気持ちは分かる。少ない紙ごみはどう出せば良いかのアイデアを行政側からPRしてはどうだろう。例えば不要の大きな封筒に入れたら出せるなど。
生ごみは腐葉土に使えないのか。もしできるなら、農家に協力してもらい、農家に回収してもらって代わりに腐葉土は農家で使ってもらおうというのはどうだろう。また、生ごみは水をよく切ると少しカサが減る。そういうポイントもPRしてはどうか。
- 4 4 資源化できる紙ごみは可燃ごみではなく、雑誌・雑紙として分別するよう指導すれば、可燃ごみが減ると思う。また、生ごみが極力出ないように野菜の皮や葉な

- どまで有効的に使えるようなアイデアを提供したらどうだろうか。
- 4 5 資源化できる紙ごみを、資源として回収し、その回収率を上げるような取り組みが必要。また、生ごみをできるだけ水分を減らして出せるような取り組みが必要。しかし、家庭でどのようにしたら水分を減らせるのか、具体的な方法の提示があった方がよい。アドバイスや、グッズ提案などをしていったら良いと思う。
- 4 6 市が紙ごみを回収することにより、これだけの利益が生まれることについての情報を定期的に伝える。
- 4 7 ①可燃ごみ内の紙ごみ資源の混入事例を具体的に列示し、理解を深める。
②モデル地区を選定し、他地区にも浸透を図る。
③小学校でごみ授業を実施して、家庭内の意識を高める。
- 4 8 スーパーや企業（発売元）が簡易包装にしていけば余計なごみが少し減少すると思う。消費者側でもある程度までの努力はできるが、根本からの考え改めも必要となってくるのではないかと感じた。
- 4 9 各企業や各製品でのパッケージの簡素化が一層必要。更に、「詰替」はもっと多くの製品で進めていくべきである。また、必用のないチラシの投函が多いので、行政として「チラシ御免」などのようなシールを作り、必要者はポストへ表示したらどうか。
- 5 0 ①細かく切り碎かれた紙、②人に見られたくないメモ等の紙、③紙・プラスチックが一体に貼り付けられているシート材、…これらは面倒なのでブルーのごみ袋に入れて出すケースが多い。①⇒雑誌・雑紙で一般ビニール袋に入れたコマギレ紙も収集するにすれば資源化可能。②⇒セキュリティ管理された収集方法を採用すれば、これも資源化可能。③⇒??
- 5 1 資源化可能な紙類とはどのようなものなのか。古着はリサイクルできるのか。などごみの再生についてもっと詳しく市民に示す必要があるのではないかと感じる。また、市内のチェーンストアなどでもリサイクルボックス（回収箱）の位置などをもっと分かりやすくしたり、広報すべきではないかと感じた。
- 5 2 食品のトレーは不要である。
- 5 3 スーパーではパックで売られているものが多く、多いなと思っても買ってしまい、無駄が出ることが多いので、欧米のように1個でも買えるシステムを作って欲しい。魚や肉も一切れや100gでも買えるようにして欲しい。一人暮らしの方も何うと無駄が出やすいとのこと。また、ごみ減量に向けてのアイデアや工夫をコンクール形式で募集して各人の知恵を集め分かち合いたい。
- 5 4 店頭で行われているようにトレーも別回収にしてリサイクルすればもっと減量できると思う。地域に共有の生ごみ処理機器を設置すると良いのでは。（山梨県のスーパーで共有のコインで動く処理機を見たことがある）
- 5 5 私の近所では高齢化や少人数世帯がほとんどである。私も時々野菜や果物を食べることなく腐らせてしまうことがあるので、生鮮食品等の販売は一山いくらではなくバラ売りや量り売りを推進し、食べるだけの量を購入できる仕組みづくりが欲しい。（魚肉やコンビニ弁当のトレーがごみを増やす要因のひとつ）また、資源化できる紙ごみが13%も含まれているならば可燃ごみと同一日に資源紙の収集を

- してはいかがか。
- 5 6 昔は、食材は新聞紙、筍の皮、鍋や器に入れて買って来るのが常だった事や、冷蔵庫は一般的でなかったので、今の効率の良いとされる清算システムの一個流しの在庫を残さない食材購入だった。現在は、その時に比べ、必要なときに必要な量を補充するシステムは似てはいるが、食材を含め、製品の収納容器は生産性と衛生の面で石油化学製品が主体である。加えて、冷蔵庫所有が当然の昨今、必要以上に買い込み、便利なパッケージ収納品が増える。当然、収納中身以外はごみとなる。(中には買いためで中身も有るが) この流れは、今のままでは変えられないが、収納容器の標準化、利用者の責任での、容器再利用するシステムになれば、ごみは格段に減るのだが。これは理想であり人間の性善説に基づいているので現実でないのが苦しい。名案は正直無いのだが業者を含め収納容器の共通化、標準化で雑多な分別不可能な容器、包装を減らし再利用する方向しかないのではと思っている。
- 5 7 食品メーカーに可能な限り資源化できる包装資材を使用してもらい、包装資材を消費者に洗浄する等の手間がないように工夫をすれば、さらに減量化が進むと思う。消費者にかかる負担＝手間がかかるは、資源化率をあげる上でおおきな阻害になっていると思う。
- 5 8
- ・商品包装 たまにスーパーなどでは肉をトレーに入れず袋で販売している。トレー容器を使わないのでリサイクルの手間もなく、味付けにも袋に入れたままでできるので便利。このような、もともとの包装の少ないものが売られると良い。
 - ・商品回収 ユニクロや無印良品で行っている、着ない服の回収やスーツの下取りなど、とても良いと思う。品物を購入する時点で、リサイクル方法が分かるとより良いし、そのような企業を応援してほしい。
 - ・生ごみの資源化 コンポストなどを無料配布してほしい。
- 5 9 使い捨て商品を使わない。買い物袋は当たり前になってきたが、傘袋はまだまだと感じる。
- 6 0 家庭だけじゃなく、各企業もごみの減量に努力していくべきだと思う。
- 6 1 10月からごみの出し方が変わり、はじめは皆さん戸惑ったらしいが、このごろはようやく慣れたようだ。可燃ごみの袋が小さくなった家を多く目にする。子ども会の回収も増え、資源ごみを出す機会が増え助かる。先日チラシを見たら、茶碗などは多摩のエコにこセンターに持参すればリサイクルできるようだが、ついごみに出してしまう。市内で回収してもらえれば助かると思う。今回の資料を見て資源不可能が思ったより多く驚いた。紙でもプラスチックでも汚れが落ちていないとごみに分別されていると聞いた。これは本当にもったいないこと。ちょっと手間をかけて私達もごみに分別されないようにしたいものだ。
- 6 2 実際に、ごみ減量を実行し、成果を上げている人の「私はこんな方法でごみ減量をしている」アイデアを広く募集し紹介してほしい。色々な方法を知らない、分からない人には具体的な方法を示すことで、第一歩として真似をすることから始まり、人によっては更に工夫を加えて新たな方法を見つけることも考えられる。店頭回収について、ただ単に回収するのではなく、ポイントカードでポイントを

貯めることができるスーパーがあり、休日に親子で回収ボックス前に行列する姿を見かけることもある。ごみ減量にもつながると思うので、そういうことも広めてほしい。(フードワンみなみ野店で利用している)

- 6 3 食料品の必要以上の購入、食事の必要以上の作りすぎなどにより生ごみが大量に出ることが考えられる。消費生活部門と連携し、消費者に適切な指導を行いごみ減量を進めていく。
- 6 4 私は徹底的に分別を行っているので一週間に一度ミニ袋で大丈夫なのだが、衛生上の問題で週に2度出している。買い物の途中等、出ているごみを見ると紙等もかなりブルーの袋に入っているのが透けて見える。やはり個人個人の自覚が大切だと思う。八王子のように徹底的に分別を行っている所は少ないのではないかと思う。これ以上市の方で分別するのは難しいと思う。やはり個人個人のモラルだと思う。
- 6 5 可燃ごみの場合は、忙しい生活の中での毎日の分別だから、よごれた物は洗ってプラスチックにという手間が大変でついこちらに入れてしまう。だから消費者より販売業者に改善してもらおうというのも一つのポイントではないだろうか。
- 6 6 ごみの分別についての認識が徹底されていないところが一番の課題に思われる。どういうものが資源ごみで、逆はどんなものが該当するのか。こちらは分別して出したつもりでも、時々回収されずに残されてしまうこともある。まずは、市民(出す側)の意識改革が第一ではないだろうか。分別やさらなる減量の意欲を掻き立てるような広報の工夫もあれば、尚良いのではないか。時々イベントがあっても面白い。ごみと言え、どうしても嫌な存在になりがちだが楽しみながら取り組めたら良いと思う。
- 6 7 可燃ごみの内容物はほぼ生ごみだと思う。マンションなどには土に戻せる機械が導入されているなど市でもそういったものがあれば大幅に減らせると思う。後はティッシュ類も我が家ではかなり可燃ごみで出る。対策としてなるべくティッシュを使わないよういらなくなった古布やガーゼなどで代用したら大分ごみが減った。子どものおもちゃはリサイクルショップに売ったり、友人に譲るなども良い方法だと思う。食事も食べきれない分しか買わない作らないを徹底すればエコにも繋がると思う。みんな一人ひとりがもっと意識できるようイベントなどを行っても良いかと思う。
- 6 8 一番身近なことなので、小さい時から子どもに啓蒙が必要だと思う。小学校から社会教育の一環として親しみやすく植えつける。これこれこれだとこれだけの節約で、何がどうなるか、数値などで目に見せてわからせる。ドイツなどはそういうことが徹底されていると聞く。また、行政だけではなく、販売者が販売店の店頭、自販機の脇などなど一般の人々の努力があるのも良いことだ。私達は出しそびれてもそういう機会も利用できる。官民両方の努力が長く辛抱強く行われることだと思う。私としては、回収されたごみが、どのように扱われて再利用するのか、またどんな風な節約やリサイクルが行われているか、具体的な数値、映像、画像があるとさらに良いと思う。
- 6 9 可燃ごみからの資源ごみ化というと、思い浮かぶのが牛乳などのパックだ。私の

ような一人暮らしでは、どうしても洗わずそのまま可燃ごみにしてしまう。自由に生活する時間内でパックを洗って解体する時間を、他の時間に充てたいと思っているからだ。八王子は多くの大学があり、一人暮らしの比率は把握していないが、かなりの学生も同じこと（パックを可燃、小冊子も可燃）をしている。実を言うと私も学生時代からそうしていた。なので可燃ごみを細分化し、パックならパック洗浄のみで回収し、解体は障がい者の作業所に手伝ってもらおう。その場合の回収・輸送に経費がかかる分、それ専用のごみ袋を設け、「ごみ袋を買うのなら自分でやろう」という気持ちを芽生えさせる。地域の作業所活性とごみへの意識改革ができると思えば一石二鳥だと思う。今回は私の例を出し、牛乳などのパックでした。人の意識は変化する環境があると結構変わるものである。イヤラシイ言い方になってしまうかもしれないが、「手間を惜しむと財布に厳しい」という意識を感じさせることなく市民の皆様が可燃ごみの資源化を意識していければ良いと思う。

- 7 0 日本人独特の「もったいない」精神、すなわち物事に感謝する気持ちを強力に高揚し、ものを大事に長く使用するよう常日頃から手入れすることを心がけ、ものを粗末に扱わない風潮を確立する。
- 7 1 ごみがどのように処理され保管されているか。そこまで考えて購入する。一人ひとりが責任感を持てる社会が理想だと訴え、あきらめずに活動する。
- 7 2 まず、一人ひとりの小さな心がけが必要だと思う。物はなるべく大切に使い、店での過剰な包装は断り、ごみとなるものは小さくなるように捨てるとうまいと思う。再利用できる物はきちんと資源回収に出すことも必要なことである。
- 7 3 ・処分する時のことを考えて物を購入する意識の徹底。
・生鮮食品（野菜、魚介類など）の料理の工夫。材料の徹底した活用、もったいない精神の普及・問の趣旨と違うが、生ごみの資源化も必要。まもなく世界的な食糧難の時がくる。ごみの“ごみの処分”とは違う観点、食糧の徹底した“活用”という観点が今後重要になってくると思う。
- 7 4 グラフを見ると、再生可能な紙類が全体の 13%も含まれている。紙類の回収は隔週でしかないため、最長で2週間、家庭で保管することになるが、原因のひとつではないか。回収回数の多い可燃ごみの日に一緒に出してしまうケースがあるのではないかと思う。コスト面等で難しいのかもしれないが、回収回数を増やしてもらえると、出しやすいと思う。できればプラスチックも週2回、回収してほしい。
- 7 5 ごみの仕分け自体、かなり細かく指定されているが、細かすぎるとの指摘もあり、結果として思うような実施数値が上がってこないとも考えられる。ごみの区分について再検討し、より市民がごみを出しやすい環境を作り、結果としてごみの減量化の数値が得られるように努力すべきである。
- 7 6 我が家のごみ袋の中は殆ど90%が生ごみなので5リットルで充分なのだが、資源化できる雑紙を入れる袋が無い人もいるのでは。そのような人に無償で簡単な雑紙用袋の支給が必要かと。市役所や市民センターなどで受け取れたら紙の資源も増えるのではないだろうか。又は新聞紙で簡単にくるんで出してOKとか。

- 7 7 資源化できる可燃ごみ（ダンボール、古雑誌など）については隔週ではなく毎週収集してもらえると、そちらに出すものが増えると思う。今の回数では溜まり過ぎて、出すときに重くて大変なので、多少のものは可燃に出してしまっている。店頭回収のトレーやペットボトルのふたなどは、買い物に行く際に他に寄る所があると面倒で、不燃ごみやプラスチックごみにしてしまう時もあるので、市で必要なら、プラスチックの日に分けて出すことは可能だし助かる。
- 7 8 資源化可能ごみの低減の問題点は分別の難しさとごみの家庭内滞留期間が長いこと。わからないから可燃ごみにしてしまえということが多いと思う。持ち込みできるごみ捨て場所を設けること、そして、どれが資源化できるごみかを明確にできれば資源化可能ごみは少なくなる。
- 7 9 不用品はリサイクルショップに出して、ごみにしない努力をする。フリーマーケットを活用する。使い捨て商品をなるべく買わない。
制度的な話をするなら、販売先が売った商品の空容器などを有償で買い取る制度が必要。売りっぱなしは問題である。液体物の容器に関して、再利用のことを考えるデザインが必要で、この面からの規制があっても良いと考える。
レジ袋の有償化には反対である。大きなレジ袋は資源ごみ（プラスチック）を出す時に流用できるので。
現在のごみの出し方はあまりに複雑すぎていると思われる。毎回、分別の手引きを見ながらごみを出す始末である。両親が働いている世帯は今のごみ出しは辛いものがあると思われる。住民に優しくないように思われる。
- 8 0 お金をかけられないと思うので、市民のアクションと知恵を有効に使うことが必要だと思う。ごみ減量アイデアを募り、上位数名を表彰する。商品はクオカード3千円くらいで十分。きっとすごいアイデアが出てくるに違いない。また、広報でティッシュを使わない賢いお掃除特集を組むとか。日本人は異様なほどティッシュを消費しているので即効性があると思う。食品を無駄に買わないように呼びかける。
- 8 1 資源化できるごみの分別収集の実施。
- 8 2 ・分別を徹底する。・ごみになる広告を減らすように行政指導する。・食事の食べ残しを減らす。・雑紙を入れる適切な入れ物の調達が困難なため、資源化できる雑紙が生ごみに入っているケースが多いと思う。市から入れ物を貸与し、分別しやすくしてもらいたい。
- 8 3 民間企業やお店との協力体制が必要だと思う。エコバッグキャンペーンや簡易包装への協力などの呼びかけはもちろん、消費者が品物を購入する際も意識できるような取り組みがあると良いと思う。
- 8 4 可能な限り、詰め替え商品を購入する。ケーブルテレビで分別やリサイクル、循環型社会などの内容を放送して、PRする。
- 8 5 ごみの更なる細分化の心掛けが必要。例えば、一枚の紙でも資源化できる部分と資源化不可能な部分とに分けられるものがある。それをこまめに切り取り、それぞれ回収に出すことにより、ごみの減量と資源化推進につながる。
- 8 6 1 K集合住宅（若年の单身用と思われる）の管理人の方と話す機会があり、ごみ

の分別について若い人はプラスチックごみを洗うのが面倒でほとんど可燃ごみとして出してしまうとのことだった。若年単身者向けの対策が必要だと思う。八王子は大学も多く、学生の単身者も多いと思う。まずは各大学に資源の有効利用についての教育を依頼するのも一案と思う。各家庭には、捨てるには惜しいが、かといって持っていて使い道がない貴重な資源が眠っていると思う。それらを安くても有料で買い取る制度が出来れば、かなり出てくるのではないかと思う。世代が変われば、一括して捨てられてしまう恐れが充分にあると思うので、是非検討をお願いしたい。

- 8 7 よく考えて資源化可能なごみはきちんと分別してから出すようにチラシ等でわかるようにする。
- 8 8 ごみ減量に応じて市民税の軽減を行う。
- 8 9 ちゃんと出しているとスタンプがもらえて何かと交換できるようにする。エコポイントとか。
- 9 0 資源化、一軒一軒お金で買い取る。お金がだめならポイント形式。回収車を減らす。委託単価を下げる。
- 9 1 自販機に課税を行い少なくし、缶、ペットボトルなどポイ捨て防止。チラシ印刷物などの業界への対応依頼、郵便ポストに入るDM、チラシの多いことか？新聞社へも不要不急なものの廃止。
- 9 2 今のままを維持するしか方法がないのかも。

平成 23 年度市政モニター 第 2 回アンケート結果
平成 23 年 12 月

発行 八王子市総合政策部広聴広報室（広聴担当）
八王子市元本郷町三丁目 24 番 1 号
電話 042（620）7411（直通）
F A X 042（620）7322
